

# 平成 30 年度 事業計画

## 1 基本方針

伊勢志摩地域の自然、歴史、文化、食等の分野における高いポテンシャルを生かした情報発信を行い、国内外からの誘客を促進していきます。

国内誘客においては、引き続き消費者の傾向を的確に掴み、ターゲットに効果的に訴求するプロモーション事業を実施するとともに、平成 30 年の全国高校総体、平成 33 年の三重とこわか国体等の大規模イベントを契機として、“伊勢志摩ファン”を増やす取組を展開していきます。

海外誘客においては、訪日外国人がゴールデンルートに集中する傾向が顕著である現状を打破し、伊勢志摩地域への誘客につなげるためにも、ラグビーワールドカップ 2019、東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機ととらえ、訪日外国人を呼び込む仕掛けと仕組みを構築することが急務となっています。そこで、平成 31 年度からの本格的な体制構築のため、インバウンド業務を専門に行う正規職員を配置し、海外誘客に向け、伊勢志摩地域として広域的な取組を展開していきます。

また、誘客を促していくことと併せて、クルーズ船の受入対応、バリアフリー対応など、受入体制やおもてなし面の充実も図っていきます。

これらの取組の充実のため、事業の質、専門性及び継続性の向上、専務理事の配置による組織体制の強化を図り、日本版 DMO 候補法人登録（地域連携 DMO）を進めます。

また、第 2 期伊勢志摩観光振興プランの最終年度である平成 30 年度は、「“観光立国”伊勢志摩経済圏の活性化」を目指し、取組を進めていきます。そのうえで、平成 31 年度以降の伊勢志摩地域の目指す方向性をさらに磨き込んだ伊勢志摩観光振興プランの改訂にも取り組み、今後の伊勢志摩地域の観光としての方向性を見出します。

全国的に激化する観光情勢において、伊勢志摩地域が埋もれること無く、“伊勢志摩ファン”を増やしていくため、伊勢志摩広域のスケールメリットを生かして、伊勢志摩地域が一体となって取り組んでいきます。

## 2 伊勢志摩地域の経済が活性化することを目的として行う観光振興事業

### (1) 観光情報の発信事業

10,586 千円

行政区域の枠を超えた広域でのスケールメリットを活かした効果的な情報発信を図り、継続的な誘客促進に寄与するため、以下の事業に取り組みます。

#### ①インターネットによる情報発信

当機構ホームページ（以下：機構 HP）のアクセス数については、伊勢志摩サミットやお伊勢さん菓子博 2017 の開催などによる注目度アップもあったことから年々増加しており、平成 29 年度のページアクセス数は、前年度比約 10%増の 580 万ページアクセスになる見込みです。

平成 30 年度については、特集・モデルコースなどコンテンツの充実につとめるとともに、リニューアルから 3 年が経過することから、ホームページの改良を実施する予定です。

また、機構 HP を活用した財源の確保として、旅の予約ページから予約・宿泊された件数や金額に応じて報酬を得ており、平成 29 年度は約 16 万円の収入が見込まれています。平成 30 年度については、この他に、特集ページへの有料記事掲載など新たな

な財源の確保にも取り組む予定です。

この他にも、フォトギャラリーの内容充実や、SNS の活用により、効果的な情報発信に努めます。

		平成 28 年度 (実績)	平成 29 年度 (見込)	平成 30 年度 (目標)
1	ホームページ アクセス数	年間 約 529 万ページ アクセス	約 580 万ページ アクセス	約 630 万ページ アクセス
2		年未年始 (12/28~1/3) 98,271 ページ アクセス	119,583 ページ アクセス	約 130,000 ページ アクセス
3	フォトギャラリー 画像請求件数	約 2,650 件 (月約 220 件)	約 2,000 件 (月約 165 件)	約 2,400 件 (月約 200 件)
4	フェイスブックページ 「いいね」数	約 7,800	約 10,800	約 13,000
5	ツイッター フォロワー数	約 3,700	約 3,850	約 4,000
6	インスタグラム フォロワー数	約 150	約 600	約 900
7	宿泊予約 サイト	宿泊実績	約 550 件	約 600 件
		手数料収入	約 160,000 円	約 180,000 円

## ②メディアによる情報発信

三重テレビ放送「ええじゃないか。」において、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町のイベントや観光情報、グルメなど、伊勢志摩地域の特徴を活かした番組を制作・放送します。

テーマ性のある企画でより深く、より地元に着目した旬な情報を視聴者に提供することで、リピーターの獲得及び伊勢志摩全体の知名度の向上を図ります。

なお、当番組は、三重テレビ放送他 8 局で放送され、全国世帯の約 50% をカバーしており、特に当機構がメインターゲットとしている中部圏と関西圏については約 90% の世帯をカバーしています。他にも、番組情報を新聞や情報誌に PR していることから、効果的な情報発信及び誘客促進が期待できます。

また、伊勢市・鳥羽市・志摩市を周遊する 2 週連続の特別回を設け、より実際の旅行に近づけた番組制作を行います。一度に 3 市をまたぐことにより、それぞれを近くに感じさせ、より広域周遊につなげていくことを目指します。

## ③パンフレット等による情報発信

「伊勢志摩観光ガイドブック『美し国伊勢志摩』（日本語版、英語版、中国語版、韓国語版）」を中心とした、紙媒体での情報発信を実施します。

当ガイドブックは、伊勢志摩管内の観光案内所や宿泊施設、また三重テラスやセントレアなど県外施設でも配布されており、伊勢志摩地域を網羅したガイドブックとして広く紹介されています。

内容としては、当地域へ訪れようとする観光客には、観光スポットやドライブルート、経路情報などで伊勢志摩のイメージを提供しつつ、同時に体験施設情報やエリアマップを掲載することで、当地域へ訪れてからも活用しやすいものになっています。

また、ガイドブックの QR コード (QR コード) からスマートフォンサイトへの誘導を行い、幅広い年齢層の観光客の利便性の向上に寄与し、紙媒体と WEB の双方で観光情報を提供することで、「伊勢志摩ファン」の増加を目指します。

上記のガイドブックの発行及び配布を通して、伊勢志摩の様々な魅力を積極的に発信していきます。

## **(2) 観光客及びコンベンションの誘致促進及び受入体制の整備に関する事業**

**33,022 千円**

伊勢志摩地域全体への観光入込客の増大を図るため、地域が一体となって観光客やMICE等の誘致を行います。具体的には以下の事業に取り組みます。

### **① インバウンド推進事業**

平成29年度は、伊勢志摩国立公園が「国立公園満喫プロジェクト」の先導的モデルのひとつとして選定され、平成32年度に世界水準のナショナルパーク化を目指し、訪日外国人による国立公園利用者を増大させる取り組みを行いました。

今年度は、日本初となるIAGTO第1回日本ゴルフツーリズムコンベンションが三重県志摩市で平成30年10月に開催されることや、それ以降もラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、日本への関心の高まり、観戦を目的とした訪日外国人の滞在日数の長期化が期待されます。スポーツに関心を持つ訪日外国人向けの取り組みとして、旅前及び、旅中のプロモーションを実施します。プロモーション事業における制作映像による発信を行うとともに、当機構会員に提供（※二次使用可）し、伊勢志摩の発信のための活用を促すことでもその魅力を広く発信していきます。

加えて、訪日観光客が最初に伊勢志摩を訪れることは少ないことを考慮し、他県との広域連携で展開されるVJ事業や、各種協議会に積極的に参加し、エージェントやランドオペレーターとのネットワークの構築の場を多く設けられるように努めます。

### **② 伊勢志摩情報発信プロモーション事業**

旅行者の消費傾向が「モノ消費」から「コト消費」へと変換し、旅行者のライフスタイルに寄り添う伊勢志摩になるため、「神宮」のキラコンテツに頼るだけでなく、魅力のイメージに転換し、常に新しい伊勢志摩であり、旅行者が求める観光地であるということをしっかりと伝えるコミュニケーションを実現するための情報整備と正確なプロモーション展開を実施します。

主なプロモーション展開として、昨年度に引き続き伊勢志摩ならではの観光資源を再発掘する「伊勢志摩イメージチェンジ」と、長期ステイを促す「長期滞在促進リゾートステイ」を目標に、旅行者へ視覚的にイメージを伝えるため、ブランドの持つコアなファンを囲い込んで伊勢志摩でのオリジナル事業を展開するターゲットを絞った体験レビューを元にした雑誌・WEB・イベントとタイアップしてターゲットに効果的に訴求する体験訴求型プロモーションを実施します。昨年度からのステップアップとして継続実施による魅力創出による浸透、宿泊を重点的に誘客促進に取り組みます。

特に首都圏に関しては、昨年度任命した「伊勢志摩アンバサダー」を活用して三重県の情報発信及び営業拠点である「三重テラス」等で伊勢志摩アンバサダーのネットワークを最大限活用して発信力のある方を集客したセミナー等を開催して誘客促進に努めます。

さらには、三重県及び各市町の事業と連携させることで露出度を向上させ、より効果的に伊勢志摩へ誘客促進させることに取り組み、旅行エージェントやネットエージェント及びWEB媒体とのタイアップによる実送客数増加を狙います。

新たに北海道からの誘客促進を強化させるため、北海道命名150年の機運高まる中、北海道命名した偉人「松浦武四郎」生誕200年を記念した事業として、北海道と三重県、松阪市との連携を活かして三重県松阪・伊勢志摩として北海道旅行博への出展、北海道発の旅行商品造成、各種メディアでの情報発信等を三重県、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市の事業連携により実施し、北海道マーケットのメインである札幌に重

点を置き、新千歳から中部国際空港(セントレア)へと誘導して三重県松阪・伊勢志摩へと誘客促進に取り組みます。

各種の事業展開により送客された企業が持つ実績データを分析検証し、市場での流行を先読みした投資的ビジョンを策定する根拠として活用し、次年度以降の事業展開を検討します。

### ③ ビジット伊勢志摩事業

平成 27 年 6 月に伊勢志摩サミットの開催地に選ばれ、平成 28 年 5 月に開催されたことにより、伊勢志摩地域の魅力が全世界に発信され、当地域の知名度が大きく向上し、サミット開催前後の伊勢志摩地域の観光統計における宿泊者数の面でもその効果が認められたところです。

しかしながら、平成 29 年宿泊者数に関する対前年比の現状をみると、宿泊者数の減少が顕著であり、宿泊促進対策が急務となっています。

そこで、例年宿泊者数が低調な時期である 1 月から 3 月の宿泊促進対策として、主に関西圏及び中部圏から伊勢志摩地域への誘客促進を目指して、地域で連携し、伊勢志摩ならではの旅行商品造成とその販売促進に加え、宿泊需要の喚起につながる伊勢志摩の魅力発信を併せて行うことにより、効果的な取組を実施します。加えて、期間直後の 4 月にも事業効果が及ぶことを意識した取組とします。

また、事業の実施にあたっては成果の指標を設定したうえで、その検証を行います。

### ④ 全国高校総体おもてなし事業

平成 30 年に開催される全国高校総体に訪れる選手団及び観客をリピーターにつなげるため、主要駅へ歓迎のぼりを設置し歓迎ムードを高めるとともに、選手団などへのパンフレット配布、機構 HP を活用した情報提供などにより、選手団や観客へのおもてなしの向上を図ります。

### ⑤ MICE 誘致事業

伊勢志摩への MICE 誘致を強化するため、「伊勢志摩リゾート MICE 推進協議会」と連携して地域が一体となった誘致活動を推進するとともに、国内最大級の M I C E 商談会である「IME2019 (国際 MICE エキスポ)」へ出展し、さらなる情報発信、情報収集に努めます。

また、三重県が支援する国際会議にも重複して交付する助成金制度、各種提供物や MICE クーポンの取組の充実などの強化した開催支援サービスを活用し、伊勢志摩での開催を誘致していきます。

### ⑥ 国内誘客促進事業

伊勢志摩地域の魅力を広く発信・PR しつつ、首都圏・中部圏・関西圏の各地域からの需要喚起や誘客促進を図るため、各種誘致活動を実施します。

外部の観光産業関係者などが開催する研修会への参加及び意見交換、プロモーションを実施し、各方面へ「伊勢志摩」の露出を図ります。

また、観光産業の市場動向に応じた事業展開を実施するため、観光業者及び旅行会社などとネットワークを形成し連絡調整を図ります。

### **(3) 伊勢志摩フィルムコミッション事業**

**1,540 千円**

映画、TV、CM 等の各種映像を通し、伊勢志摩地域の魅力を発信することにより、この地域の魅力の再発見や知名度、地域イメージの向上を図るため積極的な撮影の誘致を行います。

また、制作会社からの映像候補地の提供などの問い合わせへの対応、候補地の下見への同行などの支援、エキストラスタッフの派遣協力、県内の他フィルムコミッションとの連携を強化するなど、支援体制の強化を図ります。

さらに、伊勢志摩地域でのフィルムコミッション事業の円滑な実施のため、官民一体となって組織されている伊勢志摩フィルムコミッション事業推進委員会の体制強化と機能性の充実を図ります。これにより、撮影可能な場所やシチュエーションを拡大していくことで、伊勢志摩の露出の増加を図ります。

また、昨年度誘致した伊勢志摩をメイン舞台とした映画を活用することで、地域の振興を目指します。例えば、ロケ地マップ等を作成し、映画ファンを広域周遊観光につなげることや、地元で映画撮影が行われていることによる地域への誇りや愛着心を育てること、文化レベルの高い映画の創作活動に触れることで地域文化の振興を図ります。

### **(4) 観光情報の調査研究及び観光客の満足度の向上に関する事業**

**200 千円**

伊勢志摩地域全体が連携し、観光客の実態把握を行い、観光客へのおもてなしの向上を図ります。当機構に寄せられた来訪者からの意見等は、関係者へ情報共有を行うとともに、苦情等に対しては再発防止を図り、更なるサービスの向上を目指します。

また、伊勢志摩地域を訪れる観光客の動向と実態を調査するため、会員の協力を得ながら、域内観光地で観光客へのアンケート調査を実施します。調査結果は、会員に周知するとともに今後の広域観光施策の基礎資料とし、当機構ホームページでも公開します。

なお、希望する会員には調査結果を活用できるようエクセルデータも提供します。

### **(5) 観光産業及び観光文化の振興と人材の育成に関する事業**

**150 千円**

伊勢志摩地域が一体となった集客交流が円滑に進む体制を整備し、地域の観光産業の振興を図ります。また、地域の観光事業者やおもてなしに関心を持つ方等を対象に、食や伝統、歴史、文化についての基礎知識やおもてなし対応を習得できる機会を造成するため、おもてなしセミナーを開催します。

### **(6) 観光振興プラン改訂事業**

**2,500 千円**

現行プランの第 2 期伊勢志摩観光振興プランの最終年度である平成 30 年度も引き続き、“観光立圏”伊勢志摩経済圏の活性化に向け、消費行動、消費額を高めるための魅力向上に向け、取り組みます。

伊勢志摩地域のポテンシャルを生かし、全国高校総体、ラグビーワールドカップ 2019、東京オリンピック・パラリンピック等の大規模イベントを国内外からの誘客を図る好機として、“伊勢志摩ファン”を増やし、周遊促進や観光消費額増につなげ、そのことが地域の活性化をもたらす仕組みづくりが必要です。

そのためにも、平成 31 年度以降の伊勢志摩地域の目指す方向性や当機構の将来像を示すため、現行プランの達成状況や、平成 29 年度に実施したマーケティング事業

の分析結果を生かし、当機構が進めていく DMO 機能との整合性を図りながら、プランの策定に取り組みます。

### **(7) 伊勢志摩学生団体誘致委員会事業（特別会計事業）**

**3,806 千円**

平日の安定的な宿泊稼働と集客を維持できる教育旅行を国内中心に海外からも視野に入れて誘致するため、継続して宿泊・観光施設・観光団体等で組織する「伊勢志摩学生団体誘致委員会」の活動を展開していきます。

「～自然・歴史・文化から学ぶ～ 美し国・環境学習」を学習テーマの主軸として、首都圏は中学校、関西圏・信越圏は小学校、東北圏は高等学校をメインターゲットとし、伊勢志摩固有の歴史・文化・伝統・産業や国立公園内の自然を活かし、各種観光施設を組合せた教育旅行の提案と情報発信、各種プロモーションを実施し、修学旅行誘致の枠組みだけでなく、児童・生徒・学生の将来の職業の選択肢の幅を広げられるような体験学習、スポーツ合宿や大学のゼミ旅行等、幅広く教育に係る旅行誘致に繋げていきます。

当委員会内に設置された企画立案グループ会では、昨年度改訂された学生指導要領のポイントを意識し、能動的な学修や社会情勢を踏まえ、伊勢志摩ならではの教育旅行の提案やプログラムづくりの開発等に取り組み、伊勢志摩でしかできない体験を通じた学習要素を強め、他地域教育旅行との差別化を図れるよう推進します。

誘致宣伝グループ会では、全国の学校や、旅行会社等を対象として情報発信及び訪問セールス等の誘致活動を実施します。

また、昨年度休止していた伊勢志摩現地招聘事業を復活させ、教育関係団体や旅行会社営業担当者に伊勢志摩の魅力を実感してもらい、関係性を強めることで伊勢志摩が旅行先として少しでも多く選定されるよう認知度強化に努めます。

これらに加え、この地域への教育旅行の集客及び受入体制状況を宿泊・観光施設から聴き取り調査や宿泊客数の実状を把握し、効果的に誘致活動できる仕組みを構築するため取り組みます。あわせて、全国修学旅行研究協会、日本修学旅行協会及びあおぞら号近畿地区運営協議会等、関係団体との情報交換・収集を行い、マーケティングに反映していきます。

さらには、訪日教育旅行の誘致活動も視野に入れ、三重県及び各市町の教育委員会との情報交換・収集に努め、誘致できる仕組みを構築できるよう取り組んでいきます。

### **(8) 伊勢志摩キャンペーン事業（特別会計事業）**

**500 千円**

新事業「ビジット伊勢志摩事業」として、宿泊客数が低調な時期である 1～3 月に対策期間を絞り込み、宿泊者数の増加につなげるための効果的な取組を行うことから、従来のキャンペーン事業を休止します。本年度は、休止に伴う諸経費を計上します。

### 3 管理部門

#### (1) 組織体制の強化

##### ① 事務局体制

当機構の職員は概ね2,3年周期で異動している状況であり、長期的な観点での事業計画の立案や事業を実施するうえで専務理事の雇用が検討されてきました。平成30年度は専務理事を配置することにより、事務局体制を強化し真に伊勢志摩広域観光の中核を担いうる組織の確立を目指します。

なお、広域的なインバウンドのプロモーション事業を主体とした誘客活動を展開するために平成30年度中にインバウンドの専門の正規職員を配置します。

##### ■ 事務局職員（12名）の内訳（平成30年4月1日現在）

- 伊勢市からの派遣職員 2名
- 鳥羽市からの派遣職員 2名
- 志摩市からの派遣職員 2名
- 南伊勢町からの派遣職員 1名
- 三重県職員（観光誘客課 伊勢市駐在） 1名
- 三重交通(株)からの派遣職員 1名
- (株)近畿日本ツーリスト中部からの派遣職員 1名
- 臨時職員 2名

##### ② 活動状況の広報

当機構の活動状況を会員及び地域内の関係団体等へ周知するため、広報誌を年2回程度発行します。

また、新規会員勧誘時の資料として活用し、積極的な会員確保に努めます。

##### ③ 会員の拡大

平成29年度に作成した「会員拡大基本方針」に基づき、行政区域の枠を越えた伊勢志摩広域で、官民が一体となった観光振興事業の展開及び推進を図るため、会員相互及び事務局で新規会員の積極的な確保に努めます。

### 平成30年度 資金調達及び設備投資の見込みについて

#### 1 資金調達の見込みについて

借入れの予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業区分	借入先	金額		用途	

#### 2 設備投資の見込みについて

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業区分	設備投資の内容	支出又は収入の予定額		資金調達の方法	

## 平成 30 年度 別途会費又は負担金の額

当機構会費規程第 5 条第 1 項に規定する、平成 30 年度における別途会費又は負担金の額は次のとおりとする。

### 1 伊勢志摩学生団体誘致委員会事業 特別会計負担金

#### (1) 学誘特別委員 15 委員

委員名	負担金額	委員名	負担金額
三重県	300 千円	南伊勢町観光協会	30 千円
伊勢市	600 千円	伊勢商工会議所	30 千円
鳥羽市	600 千円	鳥羽商工会議所	30 千円
志摩市	600 千円	志摩市商工会	30 千円
南伊勢町	300 千円	南伊勢町商工会	30 千円
公益社団法人 伊勢市観光協会	30 千円	鳥羽旅館事業協同組合	30 千円
一般社団法人 鳥羽市観光協会	30 千円	答志島旅館組合	30 千円
一般社団法人 志摩市観光協会	30 千円		

#### (2) 学誘委員 一律 30 千円×26 委員